

「人口急減地域における医療系サービスのあり方に関する研究」

所属：自治医科大学 地域医療学センター 地域医療学部門 教授

氏名：小谷和彦

【研究の背景】

人口の急減に直面するわが国のへき地では、従通りの医師勤務体制（例えば一人の医師が常勤で診療所に勤務する体制）で医療機関を運営することは医療資源や財源の確保といった点で困難さを伴うと指摘されている。また、住民の高齢化は進み、移動制限や看取りへの対応として在宅医療が求められている。すなわち、人口急減地域における医療系サービスのあり方は変革を求められる状況を迎えている。

こうした中、複数の医師が複数の医療機関で勤務を調整し、地域に必要な医療を効率的に提供するグループ診療での対応が考案されている。この先駆的事例が岐阜県の郡上医療圏域内にある。平成27（2015）年度から、公的病院の国民健康保険白鳥病院を基幹（センター）として郡上市内の和良診療所、高鷲診療所ほかの診療所とグループ診療体制を取った。基本的には、診療所では主担当医師を所長とするが、他の医療機関への交代診療を行う。同時に、基幹病院が診療所と共同で、24時間対応の在宅時医学総合管理料（在医総管）を算定できるような在宅医療の拡充も可能となった。

【目的】

この体制は注目されているが、へき地でのグループ診療に関する研究は少なく、検証が待たれる。本体制の導入後の、特に経営状況、在宅医療の実施、また患者や地域住民の満足度の面について検討することとした。

【方法】

(1) 経営状況

この体制下の3か所の主要医療機関（基幹の白鳥病院、連携診療所の高鷲診療所、和良診療所）から財務諸表（平成25[2013]～29[2017]年度分）の提供を受けて経時変化を観察した。

(2) 在宅医療の実施

国保連合会から国保・後期高齢者のレセプトデータ（平成26[2014]～29[2017]年度分）の提供を受け、財務諸表を得た3か所の医療機関の在宅医療の実施に係る経時変化を観察した。

(3) 患者ならびに住民の満足度

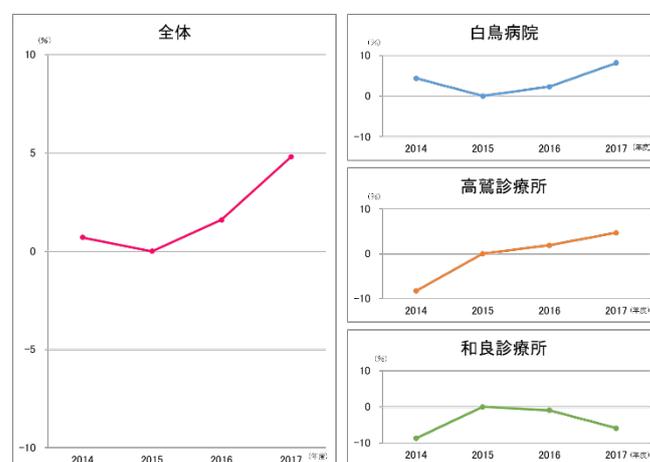
令和元（2019）年度に本体制下の主要医療機関に定期受診する外来患者において、同体制での診療に対する満足度を含む受け止め方に関して無記名アンケート調査を実施した。定期受診をしていない健康診査受診者（地域住民）にも同様に調査した。

【結果】

(1) 経営状況

1日当たりの平均外来患者数は、本体制導入時の平成27（2015）年前後で、3医療機関全体において5%弱内外で推移し、ほぼ不変の様子であった。総収益（図1）は、3医療機関全体において5%程度の微増傾向にあった。外来収益、1日当たりの患者1人当たりの外来診療収支、医業収益ともに全体において0～5%程度で推移した。施設ごとの推移に著差は認められなかった。

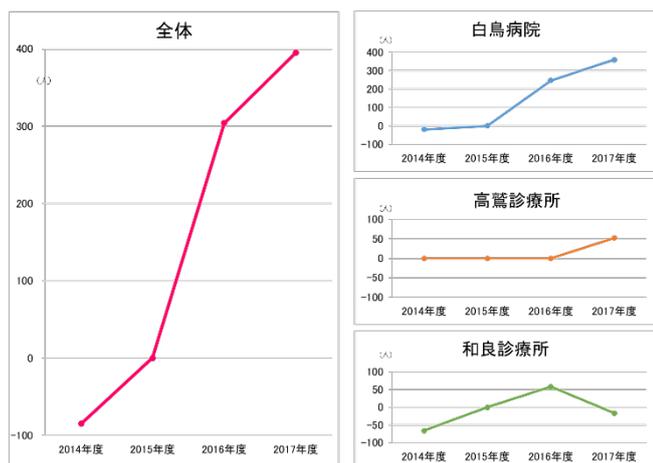
図1 総収益



(2) 在宅医療の実施

在医総管の利用患者数は平成27（2015）年後に3医療機関全体で増加した（図2）。特に白鳥病院での増加が見られた。訪問診療、訪問看護、ターミナル・看取りの利用患者数も同様の増加傾向を示した。

図2 在医総管の利用患者数



(3) 患者ならびに住民の満足感

本体制での診療に対して満足と回答した患者（解析対象数；438人）の割合は96%強で、また、満足と回答した住民（解析対象数；228人）の割合は85%強に見られた。患者ならびに地域住民の集団ともに、満足と回答した群では不満とした群と比較して、本体制を持続可能な仕組みと考える割合が高かった。

【考察】

本グループ診療体制の導入後に、経営面では、各医療機関の外来患者数や収益において、総じて大きな変化のない様子が認められた。この要因として、へき地医療の特性（例えば受診できる医療機関の限定や患者の高齢化に伴う移動制限による同一の医療機関の継続受診）、また医療提供サイドの継続受診を保証する工夫（例えば診療を交代する際に、患者が受診の継続性を保持できるように診療施設や曜日を同一にする配慮）が挙げられた。

在宅医療の提供は本体制の導入後に増えた。グループ診療体制では、日ごろから診療連携の基盤が構

築されているとともに、相互に勤務の融通をつけて24時間体制を取ることができ、このことが在宅医療を促進し得ると考えられた。

本体制での診療に対する患者や住民の満足の具合は比較的高いと思われた。いずれの集団でも、満足と回答した場合に、本体制を持続可能な仕組みとして評価した点も特筆できる。この結果は、本体制を肯定的に受け止め、へき地医療の方向性に理解を示した者が好んで受診していることの反映とも推測されるが、いずれにしても、医療提供サイドと受診サイドとは協調してこの体制を発展させることが必要であり、受け手にも本体制に一定の賛意があると判明したことには意義があろう。

【結論】

郡上医療圏域におけるグループ診療体制について検討した。今回、検討した面からはこの体制は、今後のへき地での医療系サービスのあり方の一つとして支持できる結果を擁すると思われた。本研究には様々な限界があり、検討をさらに蓄積すべきである